

科目名	中等生徒指導、教育相談、進路指導	
担当教員	本間友巳・藤岡秀樹・内田利広・西村佐彩子	
授業の概要	今日の生徒指導・教育相談・進路指導をめぐる問題は、その多彩さと深刻さを増してきている。生徒指導・教育相談及び進路指導の意義とその理論・方法について概観する。そして、中学校段階を中心として生じやすい問題や課題についての基本的な理解及びその支援の在り方について学ぶ。	
授業の到達目標	1. 生徒指導・教育相談および進路指導の意義とその理論・方法を理解する。 2. 中学校・高等学校段階の生徒が学校・家庭・社会の中で遭遇する可能性のある課題について、生徒の状況を適切に把握しながら支援方法を考えることができる。	
授業計画	回	内容
	1	生徒指導の基礎(第1章)【担当、本間】
	2	生徒指導に関する法制度(第1章)【担当、本間】
	3	生徒指導に関わる個別の課題とその支援1(第Ⅱ部)【担当、本間】
	4	生徒指導に関わる個別の課題とその支援2(第Ⅱ部)【担当、本間】
	5	職業指導、進路指導からキャリア教育への転換(第7章)【担当、藤岡】
	6	キャリア教育の方法と留意点(第7章)【担当、藤岡】
	7	入試制度と進路、障害のある生徒の進路保障(第7章)【担当、藤岡】
	8	開発的教育相談としてのキャリアカウンセリング(第7章)【担当、藤岡】
	9	教育相談の基礎(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)(第2章)【担当、内田】
	10	家庭・地域との連携 アウトリーチ(第4章)【担当、内田】
	11	家庭・地域との連携 家庭訪問と保護者対応(第4章)【担当、内田】
	12	児童虐待と学校での支援(第12章)【担当、内田】
	13	児童生徒の心理と発達(第5章)【担当、西村】
	14	児童生徒理解の方法 その1(第6章)【担当、西村】
	15	児童生徒理解の方法 その2(第6章)【担当、西村】
	試験	
テキスト・参考書	初めて学ぶ生徒指導・教育相談(金子書房)	
自学自習についての情報	事前にテキストの該当箇所を読み、疑問点等各自課題意識をもって授業に臨むこと。	
授業の形式	講義を中心とするが、必要に応じ、グループ・ディスカッションやペアによる演習などを行う。	
評価の方法(評価の配点比率と評価の要点)	最終の試験によって、行う。なお、毎回出席することを、原則とする。 授業時間数の5分の4以上の出席がなければ、成績評価の対象としません。	
その他	「授業計画」欄の各回の括弧書きの「部・章」は使用テキストの該当部分である。	

科目名	英語学 I	
担当教員	児玉一宏	
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語学(言語学)の基礎的な概念を理解することによって、英語学的な思考法の基礎を学ぶ。</li> <li>2. 中等英語科教育で扱われる基礎英文法や英語構文についての一步進んだ理解を目指す。</li> <li>3. ことばの不思議さ、ことばについて思索することの面白さ、英文法の有用性を教授することに努める。</li> </ol>	
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語学(言語学)の基礎的な概念を理解し、英語学的な英語の分析ができるようになる。</li> <li>2. 統語論および意味論の事例研究を通して、生成文法や構文理論等、理論言語学の基本的な考え方を理解できるようにする。</li> </ol>	
授業計画	回	内容
	1	オリエンテーション
	2	英語研究への言語学のアプローチ
	3	基礎英文法(1): 英文法の有用性
	4	基礎英文法(2): 教育文法の視点
	5	英語学研究に基づく基礎英文法の理解
	6	英語学研究に基づく基礎英文法の活用
	7	統語論(1): 句構造の考え方
	8	統語論(2): 事例研究[移動現象など]
	9	コミュニケーションに役立つ英文法(1): シノニム語法と英語の構文
	10	コミュニケーションに役立つ英文法(2): 談話文法
	11	英語構文研究(1) 事例研究[否定]
	12	英語構文研究(2) 事例研究[比較]
	13	意味論(1): 動詞の意味と構文の相関
	14	意味論(2): 言語の使用場面と構文選択
	15	授業のまとめ
	試験	
テキスト・参考書	[テキスト]使用しない。講義資料を配布する。[参考書]授業中に適宜紹介する。	
自学自習についての情報	講義資料と授業時のノートを中心に講義内容の定着を徹底していただきたい。次回の予習事項については、授業の最後に伝える。	
授業の形式	講義と演習	
評価の方法(評価の配点比率と評価の要点)	(1) 期末試験の成績(70%)、(2)課題レポート・確認テスト等の成績(30%) 授業時間数の5分の4以上の出席がなければ、成績評価の対象としません。	
その他	特記事項なし	

科目名	英語コミュニケーションⅡ	
担当教員	Andrew Obermeier	
授業の概要	教員の英語力を向上させる為に実際の教材を用いて教室英語などのブラッシュアップを行う。また、英語の4技能を関連して指導するあり方を考える。さらに、近年ヨーロッパで広まっているCLIL (Content and Language Integrated Learning: クリル)という英語教育法の体験を踏まえて、学校現場で理科や社会などの教科学習と英語の語学学習を統合したアプローチを紹介する。	
授業の到達目標	(1)日本語の教科書を読んだ上で英語の講義と授業活動を行うことによって、CLILの教授法を体験する。 (2)人間関係における「コミュニケーション」について深く考える。 (3)楽しく、面白く意義ある英語学習法の原則を体験し、自分で英語学習する意欲を高める。 (4)良い授業作りの模範を示す。	
授業計画	回	内容
	1	英語の4技能を関連するあり方; CLIL のあり方
	2	人間関係におけるリーダーシップの原則
	3	まず理解に徹し、そして理解される
	4	共感によるコミュニケーションの原則
	5	人格とコミュニケーション
	6	シナジーを創り出すコミュニケーション
	7	第3の案を探す
	8	まとめ
		試験
テキスト・参考書	【教科書: 事前に購入して下さい】スティーブン・R. コヴィー (2016), 「完訳 7つの習慣—人格主義の回復」。キングベアー出版 ISBN: 978-4863940611 【参考書】英語で学ぶ! まんがでわかる7つの習慣; フランクリン・コヴィー・ジャパン (監修), 小山鹿梨子 (イラスト), アルク (翻訳) ISBN: 978-4800262615	
自学自習についての情報	授業が始まるまでに教科書第3部(公的成功)を読んで来て下さい。	
授業形式	講義時は、ワークショップ形式	
評価の方法(評価の配点比率と評価の要点)	最終の試験によって、評価を行う。なお、毎回出席することを、原則とする。授業時間数の5分の4以上の出席がなければ、成績評価の対象としません。	
その他	本授業は1単位の科目である	